

## 千葉県環境審議会鳥獣部会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 令和3年3月10日（水）  
午後1時30分から午後4時30分まで
- 2 開催場所 千葉県教育会館 本館6階 604会議室  
千葉市中央区中央4-13
- 3 出席者  
【委員】羽山伸一委員（部会長）、木下敬二委員、大庭照代委員、吉田松衛委員、梶光一委員、橋本信一委員、高梨義宏委員、小茂田勝己委員、飯沼喜市郎委員  
【県】生活安全・有害鳥獣担当部長、自然保護課長他
- 4 議案  
議案第1号 第2次千葉県キョン防除実施計画の策定について  
議案第2号 第2次千葉県アカゲザル防除実施計画の策定について  
議案第3号 第2次千葉県アライグマ防除実施計画の策定について
- 5 審議結果  
議案第1号及び第3号について、原案どおり異議なく議決された。  
議案第2号について、一部修正の上、議決された。
- 6 主な質疑・意見

《議案第1号 第2次千葉県キョン防除実施計画の策定について》

問：専門家との関わりについての記述は計画内に記載されているが、キョンに限らず、計画内の役割分担から研究機関が抜けている。生態について不明な点が多いキョンの場合、新たな知見を把握するためには研究機関との連携は重要ではないか。（大庭委員）

答：研究機関との連携は重要と考えるが、キョンを専門に研究している機関はないと聞いている。ただし、キョンの防除を行っている東京都とは情報共有を行っている。研究機関と連携できるか、今後も模索していきたい。（千葉県）

問：キョンの専門機関はないと思うが、同類のシカについては専門機関があると思うので、連携を検討できるのではないか。（大庭委員）

問：県中央博物館や生物多様性センターと連携してキョンの研究をすることはできないのか。（梶委員）

答：県内部に研究機関を作ることは理想的であるが、組織上の問題もあるため内部でよく検討したい。（千葉県）

問：生物多様性センターの研究者や県中央博物館の学芸員と連携できるとよい。（大庭委員）

答：県中央博物館や生物多様性センターとは既に連携をしているが、今後も継続していき

たい。(千葉県)

問：捕獲目標を 8,500 頭とし、計画期間終了時に推定生息数を約 9 割以下にすることを目指しているが、現行計画の記載によると年増加率が 36% であるので、必要捕獲数が足りないのではないか。(小茂田委員)

答：捕獲目標を設定するために用いた自然増加率は新たな統計手法を用いて算出したものであり、現在は自然増加率 18% 程度を用いて計算をしている。(千葉県)

問：東京都のホームページを見ると、伊豆大島におけるキョンの推定生息数の年次変化が横ばいに近い状態にあることがわかる。先進的に防除を実施している東京都との連携が重要ではないか。また、東京都と比べると千葉県はキョンの生息域が拡大しており、もっと思い切った数値目標の設定が必要ではないか。(小茂田委員)

答：東京都については予算規模が大きい中でキョンの捕獲をしている。また、東京都と千葉県では生息域の環境的要因も異なるため捕獲効率も異なってくる。本県でも、キョンの捕獲に関する補助金を増額したことにより捕獲数も増加しつつあるため、補助事業を継続していくことに加え、東京都で実施している捕獲方法を参考にした新規捕獲手法も用いて目標数をできる限り上回る捕獲をできるように努めたい。(千葉県)

問：東京都のキヨンに関する予算はどれくらいなのか。(大庭委員)

答：最新の情報ではないが、8~9 億円と聞いている。本県の場合は、農業被害金額が大きいイノシシの対策に予算が優先されるため、キヨンの予算は 4000~5000 万円である。(千葉県)

問：キyonは繁殖力も強いと聞いている。千葉県内に留めることができず他県に広がってしまうことも考えられるので、予算の確保もお願いしたい。(大庭委員)

問：本文修正はなく、原案通り了承するということでよろしいか。(羽山部会長)

答：異議なし。(委員一同)

《議案第 2 号 第 2 次千葉県アカゲザル防除実施計画の策定について》

問：シカの捕獲方法を研究していたが、群れの規模が大きいときは成功していた捕獲方法が、規模が小さくなるにつれてシカが学習し、うまくいかなくなってしまうことがあった。アカゲザルについても同様であると思うので、捕獲の方法や手順を調査し、データを蓄積していくことは重要だと考える。(梶委員)

答：まさにご指摘いただいた点を計画内に記載をしている。群れの状況毎にどんな捕獲をすればよいかロードマップを作成する予定となっている。(羽山部会長)

問：第 1 次計画では遺伝子分析による交雑モニタリング調査をしていることが参考資料に記載されているが、第 2 次計画では参考資料にも記載がない。(橋本委員)

答：アカゲザル防除実施計画では、アカゲザル母群の状況・対策について記述し、ニホンザル生息区域内での交雑についてはニホンザルの第 2 種特定鳥獣管理計画で記述すると整理・分類している。(千葉県)

問：防除実施ラインを越えた範囲での生息状況が計画に書かれていないが、生息状況は確認しているのか。(高梨委員)

答：アカゲザルの母群については、集中防除区域の範囲内に留まっていることを確認している。集中防除区域外の交雑個体の調査については、ニホンザル調査業務で実施している。(千葉県)

問：集中防除区域から出ていったハナレザルは、どこまで把握しているのか。(梶委員)

答：交雑の状況については、モニタリング調査を実施しているが、どれくらいハナレザルがニホンザル生息域内に移入しているか把握できておらず、調査も難しいと考えている。(千葉県)

問：生態系被害の概要を記載した方がわかりやすい。(大庭委員)

答：参考資料としてニホンザル地域内での交雑状況について記載する。(千葉県)

問：地元農家の中には、アカゲザル被害に対する慣れが生じている方がいるとのことであるが、被害の報告意識を高めるための仕組みも必要ではないか。普及啓発活動は重要であるとする。(大庭委員)

答：被害を受けている住民の方たちに、追い払いや捕獲の講習会を実施しており、定期的に発行しているアカゲザル防除通信でも防除活動について報告している。住民の理解を得るために普及啓発活動を継続したいと思う。(千葉県)

問：参考資料として生態系被害の概要を添付することとし、本編については修正なしということで了承してよろしいか。(羽山部会長)

答：異議なし(委員一同)

#### 《議案第3号 第2次千葉県アライグマ防除実施計画の策定について》

問：専門家などにアライグマの捕獲手法について相談したらよいのではないか。(飯沼委員)

答：効果的な捕獲方法の開発や担い手の確保が課題だと考えており、免許を持たない人も参画できるようにしたいと考えている。また、そのような新規の捕獲者のために捕獲に関する情報を収集し、技術的な資料をとりまとめ市町村に配布し、住民への技術指導ができればと考えている。(千葉県)

問：アライグマは、最も被害が深刻な外来種の一つである。生態系への被害も甚大であり、樹洞性の鳥類や両生類、は虫類への被害が見えない部分で発生していると思う。防除を促進するためには、地域の力を利用することが重要である。兵庫県にて地域主体での防除でアライグマの封じ込めを成功している事例がある。(梶委員)

答：県内にも地域主体での防除の成功事例があるので、そのような事例を周知していきたい。また、都市部での防除体制構築が課題になっているので、モデル地区を設定するなどの取り組みを展開し、効果のある取り組みを県内に普及啓発していきたい。(千葉県)

問：モデル地区を設定して防除を展開することは良い取り組みだと思う。予定している地域はあるのか。(大庭委員)

答：計画策定にあたり市町村との情報交換をしていくなかで、これからアライグマの捕獲を増やしていきたいと考えている市町村からモデル地区について好意的な意見をいただいている。既に事業実施の相談をしている。(千葉県)

問：都市部でも空き家が多くなっているかと思うが、都市部ではアライグマへの関心は低い。モデル地区の中に、アライグマの存在に気づいていない都市部の地域も含めてもらえるとよい。(大庭委員)

問：修正なしということで、原案通り了承するということよろしいか。(羽山部会長)

答：異議なし。(委員一同)